



会員往来

世界の野生動物 写真集を発刊して

笠原正行

昭和41年卒



写真：ネパール、ジョムソン街道のブーンヒルにて

【経歴】

1940年(昭和15年)生れ 満82歳

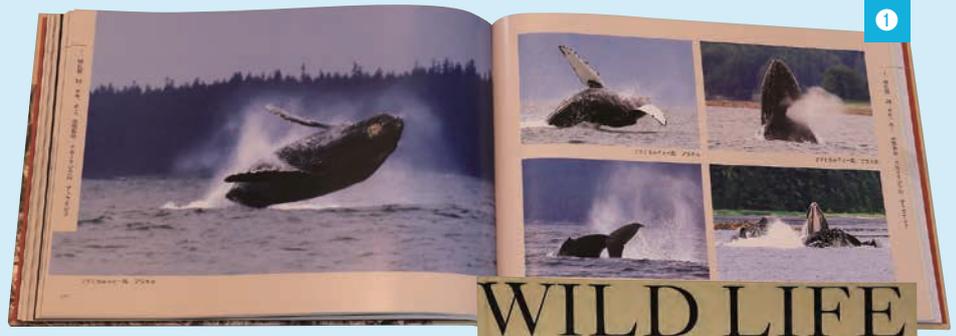
昭和41年卒 (踏志会)

在学中はワンダーフォーゲル部に所属

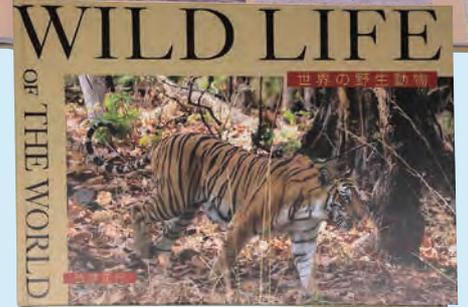
大学卒業後は信州大学医学部で研修、笠原歯科を継承

2001年には日本百名山登頂達成

写真撮影は現在も続けている



① 世界の野生動物写真集



世界の野生動物写真集 (WILD LIFE OF THE WORLD) (①) の発刊については、2020年2月のインドネシア旅行以後、コロナ禍で海外旅行には行けず、又、パソコンの中の長年に亘り撮り続けた風景、動物写真のデータがたまり、気になるようになりました。そろそろ整理の時と思い、ホームページを作成し、皆様に見て頂く事も検討しましたが、書籍の出版になりました。以前から山や風景の写真は撮っていましたが、動物写真を多く撮るようになったきっかけは、2001年9月、アフリカのボツワナのチョベ公園で20数頭の

アフリカゾウの群れに出会った事です。ゾウの群れがこちらに向かって来るのではないですか。このままではサファリカーごとゾウにつぶされると一瞬ヒヤリとしましたが、ガイド運転手が車をバックさせ待機。ゾウたちは私たちの前を横切り、ビクトリアの滝の上流のザンベジ川へ水浴びに行ったようです。目の前を横切るゾウの大きさに圧倒されると同時に、仲間の子供のゾウの前後左右をガードする様子に感動し、動物に目を向け、撮るようになりました (②)。

又、山岳・風景の写真撮影につ

② アフリカゾウ





③ 宮之浦岳山頂にて ④ 日本百名山 登頂達成



いては、登山を開始後ですが、6歳より住み慣れた松本市からは、西に乗鞍岳、常念岳、鹿島槍、白馬岳等の北アルプスの連山、東には美ヶ原、高ボッチ、南には中央アルプスの山々が見えますが、登山、写真撮影にはまったく関心は有りませんでした。

登山、写真撮影の原点は東京歯科大学、在学中のワンダーフォーゲル部の活動にあります。昭和35年、大学入学後、ワンダーフォーゲル部に入部。先輩から登山、ワンデリングの指導を受け、各地の山々に登り楽しい部活動をしてまいりました。ワンダーフォーゲル部の活動は、1年次は夏合宿が上高地の徳沢のキャンプ、槍ヶ岳・穂高岳の登頂、又、美ヶ原で開催された歯学連（当時は新設の愛知学院大を含めて7大学）サマーキャンプの支援、2年次の夏合宿は屋久島、3年次夏合宿は白馬岳、朝日岳、4年次の夏合宿は立山、剣岳でした。特に印象に残っているのが、2年次の九州、屋久島の宮之浦岳の登頂でありました。部員22名が参加、宮之浦岳登頂と屋久島の海岸に沿って島を一周するワンデリングの2つのグループに分かれての活動で、私は

宮之浦岳山頂に参加しました。当時はまだ登山道が整備されておらず、又、登山用具、装備も軽量化されておらず、苦戦したのが思い出されます（③）。

大学卒業後、信州大学医学部で研修後、笠原歯科を継承（3代目）。当時は医院の患者さんが多く、診療は多忙であり、又、保護司、史跡保護、ライオンズクラブ等の活動に参加しており、年を経るに従い、それらの役職が回って来るなどなどで、益々多忙になり、登山は遠くに追いやられて山中の霧の中になりました。40歳代後半、妻が登山を始めた事とか、松本周辺の登山グループとの交流が出来、登山を再開しました。当時、深田久弥の「日本百名山」の100山の登頂の達成が流行し始めておりました。日本百名山は、北の利尻島の利尻山から、南の屋久島の宮之浦岳まで日本各地の山々が選定されております。百名山の約3分の2が長野県及び長野県の隣接県にあります。この事は私にとって、時間的、経済的に有利と考え百名山登頂に挑戦しました。遠くの北海道、東北地方の北部、九州の南部、四国の山々は旅行会社の登山ツアーに参加し、九州の

中部の山々は空路、熊本に飛び、レンタカーを使用、中国の伯耆大山は列車を利用しました。長野県内、隣接県、東北地方の南部、関東地方、北陸地方、近畿地方は行程にマイカーを使いました。百名山登頂達成は順調に進み、2001年10月、南アルプスの聖岳の登頂で完登しました（④）。

その後は海外の山、トレッキングに目を向け、カムチャッカ半島のアバチャ山、台湾の玉山、ボルネオ島のキナバル山、ニュージーランドのルアペフ山、エグモント山等の登山、又、スイス、ネパール、パタゴニア等のトレッキングをやってきました。海外旅行は1977年にブラジル、パラグアイ、アルゼンチンに行ったのが最初であり、2020年のインドネシア旅行で100回を超えております。海外旅行の始めの頃は登山、トレッキングが主でしたが、年齢とともに、風景の写真撮影、野生動物写真撮影に変わっていきました。写真撮影の場所は、北は北極圏のスヴァールバル諸島、南は南極の南極半島の広い範囲で、特に多く行ったのは、動物が多く見られるアフリカ大陸、南米大陸です。動物写真を撮りたくて行った好みの場所は、アフリカ大陸ではボツワナのオカバンゴ湿原「3回訪問」、南米大陸ではブラジルのパンタナール「4回訪問」です。風景写真撮影ではスヴァールバル諸島、スイス、パタゴニア等は景色がよく、たくさんの写真が撮れました。

又、撮った動物、風景写真の中で印象に残っていて、見て頂きたい写真は、北極圏のスヴァールバ



⑤⑥ スヴァールバル諸島ホーンストにて ⑦ ユーコン川 ⑧ 温泉段丘 ⑨ ケツアール ⑩ ベンガルトラ ⑪ アジアライオン
⑫ ライオン ⑬ ヒョウ ⑭ チーター

ル諸島のシロクマ (⑤), 氷河崩落 (⑥), ロッキー山脈で発生し、アラスカ半島を東西に横切る、川霧にけむるユーコン川 (⑦), アメリカのイエローストーン公園の

温泉段丘 (⑧), 中米, コスタリカのサヴァグレ溪谷のケツアール (⑨), インドのランタンボール公園のベンガルトラ (⑩), インドのササン・ギル公園のアジアラ

イオン (⑪)。アフリカ大陸のネコ科動物でボツワナのオカバンゴのライオン (⑫), オカバンゴのヒョウ (⑬), タンザニアのルアハのチーター (⑭) です。



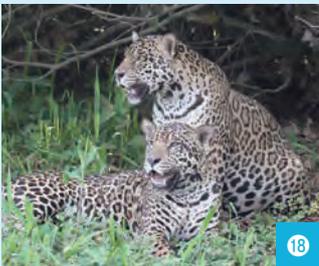
15



16



17



18



19



20



21

15 ナイルワニ 16 エルターレ山の溶岩湖 17 オオアリクイ 18 ジャガー 19 アンデスイワドリ 20 オホス・デル・マール
21 パラダイス・ハーバー

野生動物の写真撮影については、危険を伴うのでサファリカー、ボートからの撮影が多いです。遠距離からの撮影なので、望遠レンズの使用が多くなり手ブレに注意しています。又、動物との出会いが大切で、その解決策は数多くこちらから出向くしかありません。

タンザニアのセルスにて、魚をくわえているナイルワニ (15)、エチオピアのダナキール砂漠、エルターレ山の火口の溶岩湖 (16)、南米大陸のベネズエラのオオアリクイ (17)、ブラジルのパンタナール、ポルトジョフレのジャガー (18)、ペルーのマヌー公園、アンデスイワドリ (19)、アルゼンチン、プーナ高地のアリサロ塩原、オホス・デル・マール (20)、

南極の南極半島、パラダイス・ハーバーの氷山の景色 (21)。

尚、①のWILD LIFE OF THE WORLD (世界の野生動物)は東京歯科大学の図書館、長野県立図書館に納めさせて頂いております。

終わりにスペースを頂いて、4代に亘り東京歯科大学にお世話になった笠原家について書きたいと思います。東京歯科大学の卒業生は4代に亘り9人おります。初代、笠原清一は、高山歯科医学院から東京歯科医学院に校名変更の2年後の明治35年に東京歯科医学院を卒業、2代目、清文は昭和5年卒 (珊瑚会)、正文は昭和9年卒 (昭伍会)、3代目、亨は昭和36年卒 (久喜会)、諏訪子は昭和38年卒 (歯士会)、保は昭和41年

卒 (踏志会)、正行 (私本人)は昭和41年卒 (踏志会)、4代目、清弘は (母校、口腔病態外科学講座准教授)平成3年卒 (朋友会)、正貴は (母校、薬理学講座教授、学生部長)平成7年卒 (百期会)。初代、清一の1902年 (明治35年)の東京歯科医学院の卒業以来、今年、2022年で笠原家の歯科の歴史が満120年を迎えます。120年を迎えられたのは、多くの皆様の応援を頂いた事と感謝しております。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

尚、母校同窓会会報の会員往来への投稿を推薦して下さった、母校同窓会、元副会長 片倉恵男先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。